

テーマ	(職業・職場) 農業を軸とした地域内活性化の推進 ～将来に希望の持てる地域づくり～
-----	--

1. 現状と課題	
	① きつい、食べていけないイメージ → 担い手不足 ② 農業は盛んだが生産のみ、全体最適化を図れるかが課題 ③ 親が子に継がせたくないという考え
2. 実施事項(対策)	
	1. 農業への理解と誇りを持たせるための教育と学習機会の提供 2. 戦略的な情報発信による一次製品のブランド化 3. 販売または二次産品への参入支援(起業・コミュニティビジネス支援制度) 4. 地産地消の推進
3. 詳細内容	
	<p>【提案理由】</p> <p>職業、職場という問題を考えた時、海津市は「農業のまち」であることが想像できます。新しい企業の誘致や魅力的な職業・職場といった問題は、市民や行政の努力のみでは達成することが難しい問題です。</p> <p>そこで、地域住民と市が共に知恵を出しあい、いまある資源を活用・発展させながら、海津市らしい“まちづくり”を進め、市の主要産業である「農業」を資源とした地域活性化対策によって、若者はもちろん、市民が将来に希望の持てる地域に変わっていくことができるのではないのでしょうか。将来に希望が持てなければ、まちに魅力を感じませんし、その土地で暮らしていきたいといった気持は生まれません。まちが自立し、市民が活躍できる場を作り上げていく、地域を活性化することで、将来に希望を持てるような環境を整え、結果的に定住を進めていく長期的な計画として4つの提案をします。</p> <p>【実施事項1】農業への理解と誇り</p> <p>イメージの刷新</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 郷土学習の充実 → 海津の農業はすごいと思わせる教育・学習、地域講師の育成と活用、体験学習の積極的な実施。 ● 地域産物のPRと生涯学習講座等での学習機会(体験)の提供→成人対象 ● 楽しい、かわいい、面白いなど新しいイメージづくり。 <ul style="list-style-type: none"> ・農家など、地域講師の育成 ・学校の理解と協力 ・生涯学習講座や料理講座等で食農教育 ・ゆるキャラ(マスコットキャラクター) ・「ノギャル」の誘致(農地提供など) → 広告効果の高い人材活用

【実施事項2】と戦略的な情報発信による一次製品のブランド化

ブランド力は必要であり、質の高い農産物をつくることはもちろんですが、PR方法を改善、工夫していく必要がある。

- インパクト、ストーリー性など、マスコミが「ぜひ取り上げたい」と思うようなアイデア。
- 二次製品の開発、他産地との交流・協力を積極的に行っていく。
- 収穫時などに地域のまつりを通して盛り上げる。(とにかく話題づくり)

- ・行政の発信方法では地味すぎる、誰も見ない。面白味がない。若者の奇抜なアイデアと行動が必要。
- ・他産地との対決(品種ごとで競い合う)など話題づくり。
- ・ご当地グルメ開発(コンテストなどの大会開催)

【実施事項3】販売・加工への参入支援(起業、コミュニティビジネス)

- 市民の誰もが二次・三次産業へ参入できる機会を作る。「加工→販売」のノウハウ、経済的・物理的支援の充実。(対象者は個人や地域コミュニティ)
- 多くの人が農業・農産物に対し関わりを持ちやすい環境づくり
- 部分最適化ではなく全体最適化。(生産だけが良好な状態ではなく、加工、販売、運搬などの分野においても、まち全体で良好な関係を保つことが必要。)

- ・研修機会の提供
- ・起業支援(資金、場所の提供・貸与、支援組織など)
- ・地域コミュニティを対象とした「まちづくり交付金」の創設
- ・耕作放棄地の利用促進(市で所有者との調整→非農家に貸出)

【実施事項4】地産地消の推進

- 学校給食は地域で賄える食材であれば、仕入れコストは考慮せず、すべて地元産にする。
新しい「食材の流通経路」、児童生徒・市内外へのPRをしっかり行う。
- 地元商店、スーパーへの海津産商品の陳列、または定期的なイベントとして販売スペースの提供

- ・地域に根ざした生産者と消費者の結びつき
- ・地元が一番という愛着心または価値観の醸成